

人材育成・統計思考力育成事業の各プログラムの企画・実施の母体

統計数理研究所の目標のひとつに「統計思考力を備えたT型人材育成による融合研究の推進」があります。T型人材、すなわち専門分野の深い知識（縦棒）と統計学という分野横断型の広い知識（横棒）を備えた人材のことです。

統計思考院は、人材育成・統計思考力育成事業の各プログラムの企画・実施の母体として、大規模データを活用したモデリングや研究コーディネーションなど大規模データ時代に求められる統計思考ができる人材（T型人材、モデラー、研究コーディネータ）を共同研究の現場で育成します。また、大学教員のサバティカル支援事業や統計数理の成果の公開普及活動などを実施するとともに、複雑・不確実な現象の解明に挑戦します。

■ 構成メンバー

院長（兼）／ 副院長（兼）
 特命教授（共同研究スタートアップ担当、国際担当）
 特任教員／ 特任研究員
 客員研究員／ 外来研究員 等



統計数理研究所A606室
 (広さ: 約400㎡)

特任研究員等のための
 個別スペース: 8区
 交流のためのオープンスペース: 18席
 共同研究スタートアップ
 コーナー: 1区(2席)
 その他、事務・
 研究補佐のためのスペース: 3席



「共同研究スタートアップ」プログラム

適切に問題を位置付けるアドバイスをを行う場を提供します。

研究課題の解決にあたって、データ解析・統計分析でお悩みの研究者の方々に「抱えている問題が共同研究のレベルかどうか分からない」と迷っていらっしゃる方のために、適切に問題を位置付けるアドバイスをを行う場として、『共同研究スタートアップ』プログラムを用意しています。本プログラムでは、課題を持ち込まれる方はアポイントを取った上で統計数理研究所までお越しいただき、統計科学の専門家からフェイス・トゥ・フェイスで助言を受けることになります。

■ お申し込み方法

お申し込みの詳細は、<http://www.ism.ac.jp/shikoin/startup.html>も併せてご覧ください。
 ホームページに掲載されている指定書式にご記入の上、下記の電子メールアドレス宛てに添付メールにて、もしくはFAXか郵送にてお送りください。

電子メールアドレス startup@ism.ac.jp
 ファックス 042-526-4347
 郵送先 〒190-8562 東京都立川市緑町10-3
 統計数理研究所
 統計思考院 共同研究スタートアップ 係

※ 本プログラムの利用に際しては、予め所定の用紙に相談内容を記載していただいた上で、担当者と時間調整の上アポイントを取っていただき、統計数理研究所までご来所いただくことが条件となります。

※ ファイルの利用が困難な方は以下の1～10の項目をご記入の上、上記宛て先にお送りください。

1. 氏名(ふりがな)
2. 所属機関
3. 所属機関種類
4. 連絡先住所
5. 電話番号
6. ファックス番号
7. メールアドレス
8. 現在行っている業務または研究内容
9. 相談内容
10. どこで何てこのプログラムを知ったか

■ お申し込みの際の注意事項

- ◎ 問題のご説明に必要であれば、研究課題で使用しているデータをお申し込み時にメール添付でお送りいただいても結構ですが、それが非常に秘匿性の高いものである場合は、メールでのご送付はご遠慮ください。
- ◎ 共同研究課題として結実するか否かに関わらず、お話を伺ってご助言申し上げた事柄に関しては、当研究所発行の年報に「統計教育・指導援助等」の項目で相談者名・所属、相談内容(一行程度)、相談実施日が掲載されますので、予めご了承ください。年報はWeb上でもPDF版を公開しております。
 ※ 公開に支障のあるような秘匿性の高い研究課題のお持ち込みは、本プログラムの趣旨に馴染みません。

共同研究スタートアップから共同研究へ発展した例

様々な研究分野と統計学の架け橋として。

ケース1

公的機関の相談から共同研究へ

財団法人金融情報システムセンター (FISC) 調査部より持ち込まれた課題「市場リスクに関する自己資本規制ガイドライン作成のための統計的方法」に対して、実データをもちいて解析を行った結果が、大蔵省（現金融庁）の実際の検査・監督に生かされています。



ケース2

日常に隠れた数理の芽

大手通信社から相談を受けたプロ野球のマジックナンバーの計算に関して、ロバスト最適化という考え方を使得共同研究を進めることになり、その成果として、CSクリンチナンバー (CSクリンチ) と名づけられた新しい指標が2010年のシーズンから新聞社やテレビ局に配信されるようになりました。



ケース3

英語心内辞書データの統計的解析

外国語学習を専門に研究されている大学教員からの相談をきっかけに、ネイティブスピーカーと日本人の心内辞書の違いを解析するという課題に共同研究で取り組み、外国語学習法の改良に繋がるような成果とともに、統計学的にも有意義な結果が得られ、共著論文や国内外の学会で発表されました。



- ◎ 本プログラムをご利用の結果が学術的な業績(論文、学会発表)や社会への貢献等につながった場合には年報に記載させていただきますので、お知らせください。
- ◎ 本プログラムの受付は随時行っていますが、担当者在室の日が限られているため、調整には通常お時間をいただきます。緊急を要する事案であっても、必ずしもご希望に添えない場合がありますので、予めご了承ください。
- ◎ 大学・大学院の履修科目内で課されるレポート課題は、本来的に所属大学の施設等のリソースを使って自力での解決が望まれますので、本プログラムでは受付致しかねます。学位論文の完成にあたって指導・助言をお求めの場合は、特別共同利用研究員制度をご利用ください。

